

山梨県立青洲高等学校開校セレモニー 教育長挨拶

皆さん、おはようございます。教育長の斉木です。よろしくお願いいたします。山梨県立青洲高等学校の開校にあたり、ごあいさつ申し上げます。本日ここに開校の日を迎えることができましたのは、教職員の皆様方のひとかたならぬご尽力の賜物であります。心より感謝申し上げます。本来であれば新入生、保護者、そしてご来賓の方々と一緒に盛大に開校式を開催する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止とし、教職員のみのお開校セレモニーとさせていただきます。さて、

さて県では新たな時代の要請に応える高校教育として「学び続け 共に生き 未来を拓く やまなしの人づくり」の基本理念の下、一人ひとりに向き合った教育のための環境改善やグローバルに活躍する人材の育成、ICT活用のための基盤整備等を通して、魅力と活力ある高校づくりに取り組んでいるところです。

こうした中、青洲高等学校は、地域の方々や学校関係者のご理解とご支援をいただきながら、長い歴史と伝統を誇る増穂商業高等学校、市川高等学校、峡南高等学校の三校の伝統と特色を引き継ぎつつ、普通科、工業科、商業科を併せ持つ、県内初の単位制・総合制高等学校として、開校する運びとなりました。

青洲という校名は、明治期の私立図書館として地域の学問拠点となった「青洲文庫」にちなんだもので、「青」には青春を謳歌する若者のイメージを重ね、「洲」には富士川、笛吹川、芦川の三清流に囲まれた地形という意味も込められています。青洲高等学校が、三校それぞれの伝統を継承し、未来の峡南地域の学問の拠点となることを念願しております。

教職員の皆様には、校名に込められたこうした思いと三校の伝統とを礎としながら、社会の変化や時代のニーズに的確に対応できる有為な人材を育成し、新たな学校の歴史づくりに大いに貢献されることを願っております。

本日は、古屋校長先生、小林校長先生がお見えになっていますが、増穂商業高等学校、市川高等学校、峡南高等学校におかれましては、今年度は二つの学年、来年度は一つの学年と、生徒の数は少なくなっていますが、校長先生をはじめ先生方で大いに盛り上げ、卒業生を力強く送り出してほしいと思います。

ところで、青洲高等学校の開校に向けては、昨年度、事務局で逆瀬川校長を中心に準備を進め、ここに先生方が揃い、これから子どもたちを迎え、学校生活が始まります。学校というのは不思議なもので、先生も子どもも数年ですっかり入れ替わるのに、学校の雰囲気はいつまでも変わらず受け継がれていきます。先生方におかれましては、本校の基礎を築くと同時に、本校の校風を自分たちが作り上げていくのだという使命感をもって頑張ってほしいと思います。

結びに、青洲高等学校、そして増穂商業、市川、峡南の各高等学校、四校の発展と皆様方の益々のご健勝とご活躍を祈念し、青洲高等学校開校にあたっての挨拶といたします。